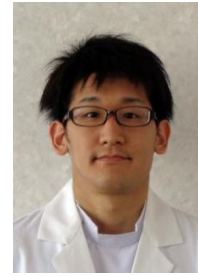


## 和歌山病院での実習を終えて



鈴木 景

今回の和歌山病院実習では、結核を中心としてその病態や疫学、また画像の読影の方法について勉強させていただきました。

結核菌の講義では結核が今でも広く存在していることに注意して、結核が少しでも疑わしい段階から感染対策が必要であることを強く印象付けられました。そして、逆に感染対策をすれば恐い病気ではないことや、治療法もきちんと理由をわかって行うことなど、将来臨床で学習したことを生かせるものでした。

胸部レントゲンの読影について今まで私はそれほど得意意識を持っていなかったのですが、南方先生からその原理から教えていただくことによって、これから読影をする際の考え方の基礎をつかむことができました。

また肺の区域を表す「ブロンコ体操」を通じて頭だけではなく全身を使って知識をみにつけるということを実際に経験させられ、今まで頭だけで何でも覚えようとしてそのたびにすぐ忘れてしまうということの繰り返しだったのも、身体に覚えさせることにより二度と忘れることのない本当の意味での知識の獲得を実感することができました。

今回は実習というより、座学がメインでしたが、どれも原理的なところを覚えやすく指導していただけて、2日間という短い実習期間ではありましたが、これから医師を目指すうえで必要となる知識を獲得するうえで非常に有意義な実習となりました。そして、普段の自分が答えを早く知りたいあまりに考える機会を失っていたことを痛感させられました。先生はお忙しい中、自分たちで答えを見つけることを待っていただいていたように思い、普段ならできない貴重な経験に非常に感謝しております。

南方院長先生・駿田副院長先生をはじめ、スタッフの方々、どうもありがとうございました。